

静私公なだより



何が見えるかな

- 教員養成機関と私立幼稚園振興協会との意見交換会
- 特集「子どもと大人の育ちを手伝う仕事(その1)」 香野 毅
- 特集「可能性を引き出すリーダーシップ(その2)」 松原 美里
- コミュニティ(保育の窓)
- もの想い(認定こども園 島田学園付属幼稚園／御殿場聖マリア幼稚園)
- 乳幼児期の体力づくりの考え方 磯谷 仁
- ナイスショット&編集後記



NO.197
2023③
Spring

教員養成機関と私立幼稚園振興協会との意見交換会

令和5年1月18日(水) 私学会館にて教員養成機関と私立幼稚園振興協会との意見交換会が開催されました。全体会では千葉理事長の挨拶があり、企画委員会江崎委員長より3月の就職フェアについてのお話がありました。その後、4グループに分かれ、分散会がおこなわれました。分散会では就職と実習についてそれぞれ意見を出していただきました。

就職について

●就職の傾向はどうか？●

- ・入学当初は「保育園」志望が多いが、「幼稚園」志望も3割程度はいる
- ・3分の1程度は公務員志望
- ・「保育園」志望の理由は、乳児期からの継続的な保育を望んでいるから
- ・カリキュラムのしっかりしたところで働きたいという学生もいる
- ・ガッツのある学生は、「幼稚園」を志望する傾向にある
- ・教育実習以外にも、見学や自主実習を経て、就職先を決める学生もいる
- ・小学校免許も取れるので、そちらに就職している学生もいる
- ・認定こども園は、乳児・幼児ともにいる。幼稚園は、幼児のみというところで、学生が迷うところはある。どちらかというと、幼稚園希望の子が多い
- ・半数くらいの学生が、福祉施設に就職している
- ・一般企業も増えてきている
- ・就職先が多数あるが故に迷ってしまっている
- ・企業の小規模園に希望の学生が多かったが、2年ほどで減ってきている
- ・園側のサポートが、しっかりと得られるかが一番大切だと考えている
- ・実際の求人数は、保育園の方が圧倒的に多いので、保育園の方が引く手あまたという印象を持つ
- ・就職先は、実習園や母園、また自宅から通える園を希望する学生が多い
- ・求人票も実習関係もwebで行っている。保育も多様化してきている
- ・株式会社立の放課後デイなど発達支援の施設も多い
- ・小規模保育を希望する学生が増えている
- ・低年齢児を複数名で見る方がよい
- ・神奈川の市町では住宅手当が82000円（国と市が1/2ずつ）出っていて、県東部への就職者が少なかった

●学生の特徴・傾向について●

- ・学生は、幼稚園に対して、1年目から1人で担任するのが負担、休みが取りづらい（福利厚生面）、休憩時間がない・気が抜けない、ピアノのハードルが高い等のイメージがある
- ・作業労務の大変さなどを聞くと悩む学生もいる

- ・「ハウレンソウ」ができない学生が多く困っている
- ・人の前に立つのが苦手、話すのが苦手な子が多い（練習はしているが）
- ・SNSで就活をしている
- ・親が転ばないように守っている
- ・心に余裕がない学生が多い。たくさん園へ行けないとなるとやはりネット検索するしかない
- ・指示されたことはできるが、間違えるのが怖いのか自分で動くことができない

●昨年起きた保育現場の事故の影響は？●

- ・特に影響なし
- ・オープンキャンパスに高校生の親子が参加し、保育現場の処遇改善やホワイトをPRした

●就職斡旋企業、人材派遣・人材紹介企業について●

- ・養成機関では人材紹介会社は利用しないよう指導している
- ・以前、このような会社就職した学生もいたが今はいない
- ・退職の代行がある。人を育てる学校であるのに、そういうことを進めていくのはよくない
- ・エージェンシーのような会社の立ち入りは禁止している（フェア会場に）

●養成機関側からの要望や養成機関の現状など●

- ・少子化の波は養成校側にも押し寄せているので、人員が少ないと言われても、これ以上できることはない。潜在的保育者をどう発掘・活用するかという問題もある
- ・学生数は多いが紹介できる学生ばかりでない。どうやって学生のモチベーションをあげていくかが課題
- ・幼稚園フェア コロナで就職する学生限定ということだったが、もう1年生を含めていった方がよい。またリクルートスーツに限らないようにした方がいいのでは？
- ・学生数（入学者数）が少ない
- ・少子化の影響を受け、今年度は定員を満たさず、5年前は1.5倍くらいの受験倍率だったので学生数自体がかなり少なくなっている
- ・オープンキャンパスの参加も減っている
- ・入学式・卒業式を欠席する学生もいる
- ・学生が、何で園を探し判断するかと言えば、インターネットが最初なので、園側がしっかり情報発信をしてほしい
- ・“人がいないから来て”（誰でもいいんだ）でなくて“あなただから来て欲しい”（自分が必要とされている）という気持ちで声をかけてほしい

- ・働き方改革があり、ホワイト前提、先輩の先生に意識を変えてもらいたい
- ・初任者にも積極的に関わり、人間関係を築いてほしい
- ・学生には保育観を大切に指導している
- ・十分な信頼関係を築き、長い目で見て育ててほしい
- ・男性保育者は減っていないため、採用して欲しい
- ・昭和の教育は通じない
- ・学生の就活のペースが遅くなってきているなど感じている
- ・園側と一緒に保育を学んでいましょうという場があり、恵まれていると思う
- ・就職した学生から、お便りが大変だという声を聞いた。園にいた間に、お便りを書く時間を設けてもらえると嬉しい
- ・採用決定後、3月に研修をするのは（たとえ給料ありでも）やめてほしい。3月末までは学生の身分なので
- ・4月1日以降に教育指導していただきたい。4月前に事前研修をやるかやらないか選択制にしたとしても、学生には無言の圧力がかかっていることも…
- ・高校の教員が短大への進学は勧めない。大学が入りやすくなっているから4大進学傾向にある
- ・学校側としては、園側と密に話をする機会を持つことがとても大切だと考えている。長い目で保育者として育ててほしいという思いがある。今回のような意見交換会は、非常に大切だと考える

実習について

●養成機関側からの意見・要望等●

- ・労基に従って、休憩時間をしっかり作ってほしい。「最後に休憩・早めに退勤」ではなく、労基によれば6時間で45分の休憩＝「真ん中で休み」を入れてほしい
- ・学生に診断名がついている場合は、事前にお伝えしている
- ・適性のない学生にむやみに資格を与える訳にもいかないので、実習の「不可」もあり。ただ、巡回などの際に、事前に相談してほしい。また、園の評価がすべてではなく、養成機関側で上方修正の余地もあるので、園側の率直な評価でかまわない。付度は不要。園側の評価を、学生にそのまま見せるか見せないかは、養成機関によってまちまち。どちらにしても、「不可」の場合は、本人と面談し納得の上、もう一度実習を促している
- ・教育実習は4週間であれば、Ⅰ・Ⅱ期が違う実習園でもよい
- ・実習と就職は結びついていない
- ・1年生の終わりの実習で、園側から就職に誘われた。まだ、本人には就職のところまでの意識は全くない状況なので戸惑いが大きい
- ・早めに声をかけられたから、就職に結びつくとは限らない
- ・責任実習は、最終週の水曜日頃に行ってもらえると、残り二日間で振り返ることができる。責任実習を終えた後の学びも大切と考える
- ・教育実習は、Ⅰ期もⅡ期も同じ施設でと考えている。（最初に見た子どもたちの半年後の成長を見ることが出できるようにとの思いから）
- ・実習は、学びの場。評価するのではなく、育てる場と考えてほしい
- ・甘えが出てしまい実習にならないのではという考えもあり

- 昔は母園での実習は不可ということがあったが、今はない
- ・毎日短い時間で良いので、保育のねらいなどについて、担当教諭と話せると有難い
- ・愛知・岩手・宮城県などは、実習日誌も評価基準も県下で統一されている。そうなって欲しいが…

●実習日誌について●

- ・日誌にパソコンで入力したい学生もいるので、パソコンOKにしてもらえると有難い
- ・実習日誌もICTを検討している
- ・実習日誌は、学校でも記入の仕方は伝えているが園側の対応で記入の仕方は変えてくれてよい。しかし、一日表裏一枚の量が適切と考えている
- ・日誌は、特に決まっていないので園側で作成したのももよい
- ・時系列だと、メモを取らなければいけないということでエピソード記述を勧めてくれている園も多いようだが、書くのが難しいと感じている学生もいる
- ・担当教諭の熱心な指導は有難いが、真っ赤に指導を入れられるとへこんでしまう学生もいる

●自主実習について●

- ・10月末～11月にかけての2週間に、自主実習を行うよう勧めている養成機関もある
- ・若い内は「幼稚園で頑張ってみたら？」とアドバイスするようにしている
- ・「幼稚園」を希望する場合、インターンシップを取るよう指導しているという養成機関もある
- ・以前は、自主実習のために学校を休む学生もいたが今はいない
- ・ほとんどの学生が、アルバイトをしており、なかなか時間が取れないようだ
- ・コロナ禍の状況では、受け入れられないという園もあった
- ・自主実習に行ったら、試験科目の話が出て戸惑う学生もいた

その他

- ボランティア等求人以外の情報の扱いや学校訪問について●
- ・養成機関にメールやFAXで呼びかけてもらえれば、そのまま掲示板に貼り出すことも可能。なんでも気軽にお問い合わせください
- ・教員に話をしてもらうのはOKだが、直接学生と話をするのは少し難しい。就職ガイダンスの時間があり、その時に来てもらえれば、学生に話をしてもらうことはできる
- ・パンフレットは、学生が閲覧できるよう置くことができる。インターネットで、パンフレットなどを送ってもらってもよい

各分散会では以上のような意見が出ました。従来の「当たり前」は通用しなくなっており、園側からの情報発信の必要性や、新卒内定者の働き方改革も課題です。これらの意見を参考に協会園としても学生の現状を知り、魅力ある職場づくりの一助としていただければと思います。またこの意見交換会が教員養成機関と当振興協会の発展につながることを期待しています。

子どもと大人の育ちを手伝う仕事

～保護者と話をするというお仕事

その 1



香野 毅

1970 年、佐賀県生まれ。静岡大学教育学部教授。博士（心理学）。専門は障害児心理学、臨床心理学。九州大学教育学部卒業。同大学院を経て、九州大学発達臨床心理センター主任、2000 年より静岡大学教育学部講師、同准教授を経て現職。大学の教育・研究に加え、幼保こども園の巡回相談、学校の相談や研究助言、研修講師を引き受ける。障害児者の療育訓練会、発達障害児の親の会、静岡特別支援教育勉強会などを催す。NPO 法人しずおか福祉の街づくりの理事、心理臨床学会理事、日本リハビリテーション心理学会常任理事など。

「仕事の好き嫌いを言うてはいけない、だって仕事なのだから…」とは頭では分かっている、からだはそうはいきません。さっと取り組めるもの、後回しにするもの、渋々やるものと正直者のからだは反応します。

子どもの育ちを手伝う、育てている人を手伝うのが仕事のひとつです。私は特別支援教育や障害者心理、臨床心理、発達心理あたりを専門にしています。フィールドは、幼保こども園、学校（小中高大特）、NPO、療育相談会などで、子ども当人、両親や祖父母やきょうだいといった家族、保育士、教諭、福祉関連のスタッフといった方々に会いに行きます。そんな私にとって、保護者さんとの面談は楽しい仕事のひとつです（楽しくない仕事については字数の関係で省きます）。「悩みや困りごとを聞くのが楽しいのか（怒）？」と突っ込まれそうですが、はい、純粋に家族の話は楽しいのです。

楽しさのひとつは発見です。知ること、気づくこと満載で、「へ～」の連発です。「朝ごはん何食べてる？」だけでも話は尽きません。子どもの日常の様子、ご家族の思い、生活の営み方、これまでの歴史などなど、すべてがユニークでリアリティがあります。朝ドラのように素敵です。多くの人がドラマを観るのを楽しむ気持ちと一緒にです。家族の日常は、良いことばかりではありません。一難去ってま

た一難、いや一難去らずにもう一難かもしれません。でも、日々懸命に、飯食って、寝て、起きて、園や学校や仕事行って、晴れたり曇ったり…そこにおかしみや愛おしさがあるのです。真面目な話だからこそ価値があると感じます。

面談しながら、「面白がってみようよ」と私のなかの脳内小人がささやきかけます。「踊る阿呆に見る阿呆。同じ阿呆なら踊らにゃ損々」は阿波踊りの一節。「同じ今なら笑ってみようよ」のスタンスをとってみたいと思うのです。その昔、有名なカウンセラーから「家族（お相手）は深刻な話をします。それを深刻な顔して聞いていたら、（ますます）深刻になります。ちょっとくらい笑いをとりなさい！」と教えられました。今の私は「どうぞ楽しませてください。こちらも頑張って楽しませます」の心境で面談をしています。

ここに至るまでには、それなりの変遷がありました。そのひとつは「しょうがい」を巡るとらえ方の紆余曲折です。みなさんは「しょうがい」と聞いてどのようなイメージを持つか？身体障害や発達障害といった種類であったり、A さん、B くんといった具体的な人物であったり、あるいは「大変そうだな」「頑張っているよね」といった心情もあるでしょう。どの位置からイメージしますか。家族のこととして、ご近所さんとして、自分のこととして、

仕事に関わる立場として、仕事でも医療、福祉、教育、行政…によって見え方は変わります。ひとりで複数の立ち位置を持っている人もいます。経験や年数によってもイメージは変わります。接触経験は、親近感を増やし、受け入れ感を強くするともいわれます。これらのイメージすべてが真実であり、まぎれもなく個々の中に存在しています。ひとりの理解者としては、これらすべてを持つことはできません。でも少なくとも想像することはできますし、そう努めます。そうすることで他者の「しょうがい」に共感的に近づきます。ようやく近づき方の幅が広がった気がしています。

変遷には、「ニーズ」をどのように捉えるかもあります。ニーズとは、例えば歯医者に行く人には、表と裏のような言い方ですが、「困っていること（歯が痛い）をなくしたい」と「美味しく（痛くないように）食べられるようになりたい」という願いがあります。これらがニーズです。

ニーズは行動や考えの方向性でもあります。「子どもの発達状況や特徴をもっと知りたい」となれば医療などを受診することに、「もっとできることを増やしたい」となれば発達支援や療育に通うことでしょう。専門機関をたくさん利用したい人もいますが、同年代の子どもと過ごす機会を求める人もいます。ここでお気づきでしょうか。ニーズは実は子どもの状態とセットにはなっていないのです。私の領域でいえば「障害種別」や「発達段階」、「症状」といった子どもの状態はニーズに一定の方向を与えますが、決定的ではありません。むしろ、その子どもを取り巻く人々と本人の願いや気持ちこそがニーズのかじ取りをしているのです。歯が痛んでも、しばらく様子を見ようと、病院に行かない人だっているのです。

園の巡回相談をしていると、園側から「C くんには発達の遅れがありそうで、行動面でも気になることがある。しかし保護者にこの話題を向けたときに、うまく話が進展していかない。」といったエピソードをよく聞きます。園には子どもが「発達の遅れ」の状態をもっているのだから、専門機関に相談に行くなどの行動をとってほしいという願いがあります。一方、保護者には「少なくとも日々の生活において困りごとはないし、C なりに育ってきているという実感もある。生活は家族みんなのがんばりで成り立っている。確かに C がみんなと同じとは言えないかもしれないが、そもそも人には個性があるのだから、わざわざ相談

機関などに行く必要は感じない」といった考えがあるのかもしれません。これはあくまで一例で、もっと深刻な事情がある場合もあるし、単に気づけていないことだってあります。家族メンバーそれぞれに多様にあることでしょう。これまたユニークの極みです。

ここ数年、どんなニーズにも「さあいらっしゃい」という気分になれるようになってきました。「まずはご披露ください」です。そのうえで関係者のみなさんの方向性を近づけるようお手伝いしようと考えています。昔は、ニーズを改めよう、私の考えに置き換えようとしていたかもしれませんが。私の捉え方を一方的に伝えて、「これが正しいからこれに従いなさい」のスタイルです。もちろん私だってこの領域の専門家ですので、一定の見識や経験知はあります。だからできるだけわかりやすく披露する努力はします。でも最後は本人たちのニーズを活かしていくしかないのです。だってドラマを生きるのは本人たちです。ドラマの現場は各自の生活場ですし、長い長いドラマになります。シナリオも自分たちで書いてもらった方がよいのです。

こんな風には書いてみると、さも優しい言葉を並べてサポートティブに面談していると想像されるかもしれません。ところが年々、ストレートな物言いになっている自分に気づきます。例えば、両親面談で「お父さん、（お母さんのやり方の）何が気にいらんの？ここで言ったらいいよ」とバトルをおおったり、子どもの問題解決を焦る保護者に「腹が座っとらんね」と言ってみたりと、我ながらスリリングな振る舞いです。オブラートに包まないセリフがもれ出します。

面談はリアルな生活のなかの、ほんの一部です。でも千載一遇のひと時もかもしれない。だから、やるからにはリアル（本音）を出し合って、そのときを過ごしたいと願っています。「どうぞ楽しみにきてください。こちらも頑張ってお楽しみます。」



可能性を引き出すリーダーシップ

～リーダーとしての DOING (行動) と BEING (あり方)～



松原 美里

(合同会社ウメハナチャイルドケアコミュニケーションズ、保育コミュニケーション協会 代表)

北海道網走市出身

保育士。横浜女子短期大学卒業後、横浜市の保育園、川崎市の児童養護施設に勤務。認定こども園保育園部施設長を経て、現在は静岡を拠点に全国で活動。

コーチング・心理学・NLP・システム思考等を学び、資格を取得。保護者向けの子育て支援講座、新人・中堅の保育士向けのコミュニケーション研修、管理者向けのマネジメント研修を提供し、「参加者が主役」「笑顔あふれるワーク」が好評を博す。「子どものために大人が輝く背中を見せる」をモットーに、オンラインサロン、園内ファシリテーター・認定講師の育成も行っている。

クラスをまとめる立場・園の行事・係の取り組み・学年をまとめる立場・園全体への働きかけ…それぞれリーダーとして力を発揮する場面があるのではないのでしょうか。

活発に意見が出て前に進めていく時もあれば、温度差にもどかしさを感じたり、うまく伝わらず空回りしているような空しさ・無力感を感じる場面もあるかもしれません。

リーダーとしての力を発揮していく上では、これまでのプレイヤーとしての自分の判断・物事の捉え方では上手くいかないことがあります。では、どのような視点で捉えればいいのでしょうか？

…それは「チームのための自分」という視点です。

チームによって、自分たちは生かされ、大変な思いをしながらも自らを開き力を尽くすことによって、リーダーとしての魅力が開くのです。

リーダーの役割とは

例えば話し合いの場面において、子どもを真ん中にした“共通のゴール”へ向けて、多様な意見を引き出すことも、大切なお役目です。

リーダーは影響力がある存在ですが、自分の意見は“ひとつの声”として、それぞれのメンバーにお声掛けをし、勇気や貢献の気持ちを支えていく中で、チームがうまく循環していくための仕組みを作ることが大事です。

そのためには、「この人の話なら聞きたい」と思えるような関係性を作っておくこと：人間関係への配慮が必要です。

私自身、施設長になったはいいいけれどもなかなか人がついてきてくれない…という葛藤を感じる中で、どうしたら魅力的なリーダーになれるのだろう？と模索を重ねてきました。その中で感じているのは、以下の点です。

リーダーの魅力とは

予想外の出来事が起こることもよくあります。そんな時、目先の火を消す発想ではなく、広い視野を持ち、「火元で何が起きているのか？」を見極め、原因を解消していくような発想と判断ができること。大変なときこそ人間性や普段の関係性がモノをいうため、「この人のために」と慕われる人間力があること。逃げたくなるような場面も多々ありますが、そのときの対応を、メンバーは見えています。いざという時に腹を据えて向き合う“腹決め”も大切です。

リーダーの在り方とは

そのためにも、日々、自分とはどんな性格・クセがあり、慕われているのかを客観的に自己認知すること。無力感を突きつけられて痛いこともありますが、そんな中でも自分自身の可能性を諦めず、自己探求を重ねていく姿勢をメンバーは見えています。主体的に生き、自分らしくあることが、結果的にメンバーの可能性を信じ、生かしていくあり方に繋がっていきます。

時に上司からの思いもよらない指令に戸惑うこともあるでしょう。そんな時は腐らず、自分なりに目的地を確認し、

周りの状況を理解した上で現場との橋渡しや通訳の役割を果たすことが大切です。さまざまなメンバーがいるチームではいろいろな感情が渦巻くこともあります。そんな時も「自分でやった方が早い！」と諦めず、メンバー一人一人への配慮と、双方向のコミュニケーションを図り続けることが、風通しの良い空気感につながっていきます。

「伝えたのに」など、自分の中の正しさが湧いてくると他者を批判したくなることもあります。そんな時こそ「うまく伝えられなかった自分の力量不足だ」自分の未熟さに目を向け、「相手はどう感じているのだろうか？」と謙虚に耳を傾け、向き合い続けること。現場では日々、翻弄されるような出来事が起こりますが、リーダーの感情の揺れは表に出るとチームに影響を来すことがあるため、「びっくりしたなあ。さ、立て直そう！」と自己管理を心掛けることが悪循環を断ち切るカギになります。また、チームは人でできており、一人一人はいい人達なのですが 集団となると話は別です。“女の世界”といわれるような出来事に動揺することもあるでしょう。そんな群集心理を学び、「ああ、人は集団になるとこういう特性が出るんだな」と理解した上で、一人一人との関係性の糸を育むことが、日々の中で大切な土台になります。

リーダーシップを体現していく上での、仁義礼智信

ではどうすれば、信頼を得て慕われるリーダーになれるのでしょうか？

私自身も模索をする中で出会った帝王学の教えを、こちらに紹介いたします。

●仁 徳

仕事を進めていく上で、現実が変化していくスタートとなるものです。

まずは、目の前のお一人お一人の尊厳に寄り添い、心配り気配りをして、慈愛を持って目の前の人にお尽くしすることを心掛けましょう。

また、何かがあった時にも仲間を守り抜くことです。「なんで自分ばかり…」と思わず、自ら笑顔を向ける・「お先にどうぞ」と代償の先払いをすることで周りの人からも一目置かれる存在になります。

●義 徳

一生懸命に物事に向き合い、取り組むことです。仁徳を心掛けたあなたがその姿を見せることが人の心を惹きつけ、説得力や成果結果へとつながりやすくなります。コソコソ裏で陰口を言うなど、誤解を受けるような言動は慎みましょう。また、義徳はプライベート～子どもや保護者が外向きの顔だとすると、同僚や家族は内側もプライベート

な存在といえます。このプライベートな関係性にほど我や心の緩みが現れやすいのもまた、真実なのではないでしょうか。この時の姿も見られていることを頭の片隅におきながら精進したいものです。

●礼 徳

お世話になった方や可愛がってもらった方・ともに歩んできた仲間への義理を通していますか？自分にとって都合がいい時だけ甘えたり、利害関係で手のひらを返すのは義徳に反します。「義理をわかまえる者は、勝負に勝つ」ともいわれており、誰が見ていなくとも自分自身の心を裏切ることがないように、筋を通す生き方を心掛けたいものです。裏切らないこと、不安になっても信じ抜くこと。また、チームのモチベーションを左右するのもリーダーであるため「最低！やってられない」ではなく「これも見直すチャンスかもしれない」というように、士気の高まる言葉の与え方を意識していきましょう。

●知 徳

リーダーになったからこそ、これまでのプレイヤーとはちがう「人を導くため」の学びが必要になります。受講生として座して学ぶ機会はもちろんのこと、日々起こるさまざまな出来事から七転び八起きしながらも体験を通して学ぶ姿勢も大切です。また、さまざまな価値観や生育背景を持つ子ども・保護者・メンバーを前に、弱音を吐きたくないこともあります。相手のことを知ろうとどんな人・ことから学ぶ姿勢を持ち続けましょう。その聡明さ・知性・勉学・人生理念を、メンバーは感じます。どんなにいい人であっても、見た目に気を遣わずにいると説得力に欠けることも。品格を意識して、素敵な人を見かけたら見て盗むことを心掛けていきたいですね。

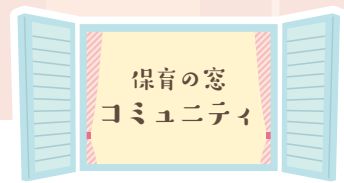
●信 徳

信徳とは、ズバリ信頼です。仁義礼智を日々バランスよく心掛ける中で信頼が高まります。結果的に「この人のために」と周囲の信頼が高まり、有難い人のご縁を紹介していただきたり愛情をいただく機会が増え、チャンスを二次的に引き寄せ、結果的にそれが収入にもつながっていくといわれております。

いかがでしたか？

ここまで書き記しながらも、私自身、日々突きつけられる思いです。

一朝一夕では難しいことですが、一緒に成長していく仲間との感動や宝物が詰まっています。コソコソと積み重ね、リーダーシップの道を楽しんでいきたいですね。



子どもと共に成長した1年

大洲こども園 野村 果穂

「先生おはよう！」と笑顔で駆け寄ってくる子どもたちに迎えられながら私の一日が始まります。小学生の時から憧れだった保育教諭ですが、1年目から5歳児担任になり、新任の私が5歳児をまとめることができるのかと最初は不安で押しつぶされそうになりました。

日々わからないことだらけで、初めての連続です。その度に先生方に相談に乗っていただき、アドバイスをいただきながら日々の保育に奮闘しています。

その中でも運動会や発表会などの大きな行事は、一つの目標に向かって子どもたちをまとめることの難しさを感じました。それぞれ個性があり、気分が下がると練習をやめてしまう子やすぐにふざけてしまう子など様々な子どもたちの姿と直面しながら何度も壁にぶつかりました。その度に先生方に援助方法や声掛けを教えていただきながら自分なりに工夫し、試行錯誤しながら取り組みました。その結果、行事は成功し一生忘れられない大切な思い出となりました。



子どもたちは今でも、運動会で使用した曲を口ずさんでいたり、発表会での劇のセリフを友だちと言い合っていていたりしています。その姿が私はとても嬉しく、頑張っ

てよかったと思える瞬間でもあります。行事を通して成長していく子どもたちの姿が、私をも少しずつ成長させてくれました。「うちの子、先生のことが大好きで早く園に行きたいと言っていました。」と保護者の方から言っていたときは心から嬉しく、同時にもっと頑張らなくてはと思います。

保育教諭になって半年以上経った今も上手いかないことも日々反省する点もたくさんありますが、何よりも子どもたちの笑顔が私のエネルギーと

なっています。保育や子どもの奥深さの入り口にたったばかりの私ですが、これからも子どもたちが「明日も園に行きたい！」と思えるような保育をしていきたいです。そして日々よりよい保育を追求し、子どもたちとの一瞬一瞬を大切にしながら初心を忘れず努力をし続けていきたいです。

憧れの保育者を目指して

あけぼの幼稚園 木村 ひまり

私は、幼稚園時代の担任の先生に憧れて幼稚園教諭を目指しました。晴れて幼稚園教諭になることができ、嬉しさと喜びでいっぱいだった反面、不安と緊張でいっぱいだったこと今でも覚えています。頭の中でイメージしていても、実際保育をしてみるとうまくいくことのほうが少なく、保育の進め方や子どもの対応等、事前に考えていてもうまくいかない保育の難しさを痛感し、この場面ではこうしたらよかったかな、他のやり方があったのではと悩んだり反省したりすることばかりでした。しかし、先輩の行う保育を学ばせていただいたり、ペアの先生をはじめ先輩方にアドバイスを貰ったりして、助けていただきました。



私が勤めるあけぼの幼稚園は、園舎南側がガラス張りになっていて、保育室は部屋入口のドアも壁もないのでとても開放的な作りになっています。保育中にいつでも外の景色を見ることができたり、南側ロッカーを含め保育室を広々使ったりすることができます。そんな場所で毎日子どもた

ちと過ごしているわけですが、保育の難しさを感じながらもやりがいを感じている日々です。それは、子どもたちのできなかったことができるようになる姿を間近で見ることができることや、手紙をくれたり「せんせい、だいすき」と笑顔で駆け寄ってきてくれたりする子どもたちがいるからです。これまでそんな子どもたちの無邪気な笑顔に何度も助けられてきました。

私は、幼稚園で生活する子どもたちが楽しいと思ってもらえるような、のびのびと過ごすことができる環境づくり、保育を今後も心掛けていきたいと思っています。また、保護者の方にも安心して預けていただけるよう努力し精進していきたいと思っています。そのために、これからも子どもたちが楽しいと思える保育を実践し、経験を積み、自分なりの保育を行い、憧れの保育者となれるよう、たくさん

幼稚園教諭として、母として…

いまいづみ幼稚園 望月 真由美

小さな頃から憧れであった幼稚園教諭になって十数年。産休・育休を取得し、現在は小1と年少の母であり、幼稚園教諭に復帰して3年が経とうとしています。また、勤務先の園に子どもが通う保護者でもあります。

無我夢中で先輩の先生方を追いかけて、必死に毎日を通じた新人時代…。勉強だけでは補いきれない保育者としての“いろは”をたくさん学びました。また「自分が得意なことを率先して行うことで、園全体の運営がより良くなる」という職員を大切に



2度の産休・育休を取得したことで、同僚の先生方には、たくさんの配慮、援助をしていただきました。体を動かして一緒に遊ぶことができなくなった私に、子どもたちは、お腹にいる小さな命に声を掛けてくれたり、さすってくれたり

生まれてきたことを伝えました。

そして、母となり現場に復帰した今、保護者の目線でも考えることが多くなり、我が子を通して学ぶことがたくさんあります。家で見える我が子と集団の中での我が子の違い…不安だらけでしたが、先生方の対応に学ぶことも多く、教諭生活の糧にすることができました。母としては「どうしてできないの？」と理想が膨らみますが、教諭生活でも大事にしている思い…「どうしたらできるかな？」と考える視点を

我が子を感じる保護者の思いを、より一層考えるようになった教諭としての今、大人の言動が多

子どもに寄り添える保育者に

静岡若葉幼稚園 本川 舞

小さい頃からの夢だった保育士になり、あっという間に5年目になりました。今まで乳児クラスを担当し、子どもの成長の早さに驚いたり、戸惑ったりすることが多々ありました。1～2年目の時は子どもにどんな言葉がけをすれば伝わるのか、どうしたら子どもに寄り添えるのかと悩んでいました。ぐずついたり、泣かれたりすると、自分は保育士に向いてないのかなと不安に思うことも何度もありました。

その後、職場の環境が変わり、出会った1人の園児がなかなか心を開いてくれず困っていたことがありました。毎日その子と関わり、スキンシップを取ることを心掛けて、時間をかけながら愛着・信頼関係を築いていきました。その子の心に寄り添い安心できるような言葉がけをし、根気よく向き合うことで



保育者を信頼してほしいと思ったのです。手を繋ぐことさえ拒否していた子がいつの間にか先生と繋ぐ、舞先生じゃなきゃいやだといってくれるようになったことを今でも

はっきり覚えています。その時初めて保育士をやっていて良かったと思い、仕事にやりがいを感じました。

その経験を経て、どんな時も子どもに寄り添える保育者になりたいと思うようになりました。子どもの声を聞き逃さないように常に意識するようになってからは、子どもの動き一つ一つにいろいろな思いやしてほしいことなどが分かるようになってきました。これからは子どもが安心して楽しく過ごせるように子どもの心に寄り添うことを大事にしたいと思っています。

もの想い

我が家の一人娘は

学校法人島田学園 認定こども園 島田学園付属幼稚園 PTA 会長
儀賀 涼子

我が家の一人娘は、3歳から島田学園付属幼稚園の満3歳児クラスでお世話になりました。付属幼稚園では「生きる力を支える心を育てる」を教育目標に「挨拶のできる子」、「やりたいあそびがある子」、「人や物を大切にできる子」、「自分の気持ちを出せる子」をめざす環境の中、先生方は毎日子どもを見守ってくださっています。その目標通り、園に行くと子どもたちは明るい笑顔でみんながやりたいことをやっている姿を見かけます。保護者を見つけると駆け寄ってきて話しかけてくれる子も多く、「まさに付属幼稚園！」と心が温かくなります。

今思えば入園当初、少し神経質な娘は朝の登園で涙することも多く、中でもトイレに行くことをかたくなに拒んだ時期もありました。その頃は私も悩み、娘にもつらい思いをさせていたと思います。そんな娘に先生方は根気強く付き合い、私にもいろいろな提案をしてください

ました。そして無事克服できた時には娘と一緒にとても喜んでくださったこと、今でも忘れません。

あれからあっという間に年長さん。運動会の競技、私は「できるのかな?」、「緊張してないかな?」と心配ばかりしていましたが、本番の娘の堂々とした姿や自信を持った顔、そして応援してくれるお友だちの声に驚きと喜びでいっぱいになりました。私が思っている以上に娘は成長し、先生やお友だちに見守られているのだと胸が熱くなりました。娘が毎日楽しく園に通えるのも、帰ってきて今日のできごとや新しく知ったことを嬉しそうに話してくれるのも先生方が子どもたちのために楽しいことを計画してくださり、いろいろな経験をさせてくださっていることに感謝しています。長引くコロナ禍ですが、私たち保護者にも配慮いただき、たくさんの喜びと感動をありがとうございました。

残り少ない園生活、私も娘と一緒に成長し、大いに楽しませていただこうと思っています。



子どもの成長する力

御殿場聖マリア幼稚園 父母の会会長
村山 志保

我が家には年長の長男、年少の次男、2歳の娘がいます。

長男はコロナの影響で入園式後そのまま休園。ようやく5月の終わりに幼稚園が始まり、最初の1週間は泣きながらの登園でした。それまで一人遊びが多くお友達と仲良くできるのか不安でしたが、縦割り保育のおかげですぐに大好きなお姉さんができ、今では周りの子に気を配ることができるようになりました。また、お友達からお手紙をもらうようになるとひらがなに興味を持ち、最近では大好きな電車に関わる漢字を自分で調べて練習するまでに。モンテッソーリ教育で言われている「自己教育力」のたまものと実感しています。クリスマス会の聖劇では、年少から憧れていた役を務めさせていただき、大きな自信につながったようです。

次男は放課後の園庭で遊ぶのが大好きで、「早く幼稚園に行きたい!」と満3歳の冬からお世話になりました。運動会やクリスマス会では、「上手になったから先

生が新しいお衣装をくれたんだ!」と喜ぶ姿に私も嬉しくなりました。家では「全然覚えてないよ〜」と言っていたお遊戯も、当日は間違えることなく上手に踊っていました。家庭では見せない息子の真剣な表情に驚き、感動し、愛情が深まりました。

長男入園後に生まれた娘は、抱っこの時から皆さんに声をかけていただき、人見知りせず誰にでも声をかけ挨拶できるようになりました。中でも毎朝会う園長先生のことはお友達だと思っているようです(笑)

今年は、昨年できなかった運動会やカトリック御殿場教会と幼稚園合同のイベント「秋のつどい」が開催されました。コロナによる制限が残る中、多くの方のご協力で子どもたちが様々な行事を経験できましたこと、大変ありがたく思っております。

春には県外への引っ越しが決まっており、下の子が通い続けられないのが残念でなりませんが、大切な幼少期を御殿場聖マリア幼稚園で過ごすことができ、子どもも私も幸せでした。きめ細やかに子どもたちを見ていただき、ありがとうございました。



乳幼児期の体力づくりの考え方

～『サーキットあそび』で基礎体力づくり～

サーキットあそびで基礎体力づくり

幅広い運動機能を育てるのに適したサーキットあそびは、園に眠っている。教材を活かして子ども達の創造力も育てる優れた遊び

皆さんはサーキットあそびをご存じでしょうか。色々な遊具を大きな円状に置いて、子ども達がそれらで遊びながらぐるぐると回っていくものです。体力づくりをするのにたくさんの利点がありますので紹介致します。

1. 何度も繰り返し行うので、大人数でも運動量が多く待ち時間が少ない。
2. 遊具を少しずつ出していくことで飽きずに遊ぶことができるし準備も簡単。
3. 1つの遊具で幾通りものあそびが楽しめ、創造力を高めることができる。
4. コースに沿っていくことで普段、行わないような遊びも、体験できる。
5. 倉庫に眠っている教材を生かすことができる。
6. 参加、不参加は自由で、気に入った所を繰り返し行うのも自由。

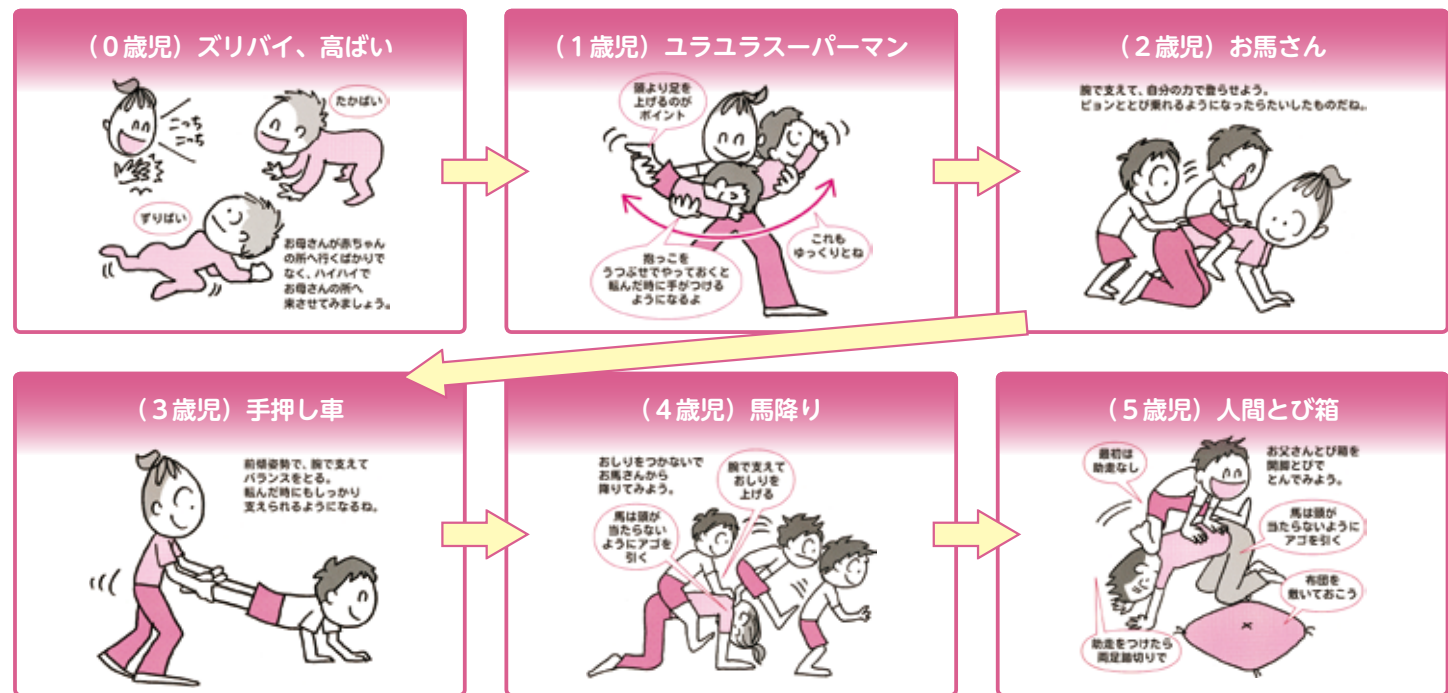
大概の遊具、教材は工夫次第でサーキットの中に入ることができますが、それらをすぐに取り出せるように倉庫内を整頓しておく必要があります。遊びをスムーズに発展させるために簡単な手順がありますのでぜひ参考にしてください。

動き回る時に必要な重心移動の機能

小さな動きから大きな動きまで必ず必要とされる重心移動の機能は転倒時に身を守るのにも役立つ

「歩く」という運動は重心を少しずつ前方へ移動していくものです。「とび箱の開脚跳び」という運動は重心を一気に大きく前方へ移動させるものです。更に前傾姿勢を伴うので、空中におけるバランス感覚も養われます。なので、前方に転倒した時に手を出して身を守ることができるようになります。サーキット遊びに取り入れることも、下記のようにふれあい遊びとしてもご紹介ください。

【年齢別とび箱運動につながるあそび】



親子ふれあいあそびとしてお勧めします

今回ご紹介いたしましたサーキット遊びは、一斉指導でも、自由あそびでも手軽に行うことができます。次回は保育の中で基礎体力を育む方法をご紹介いたします。なわとびにつながるあそびも予定しておりますが、跳べることも今回と同様に継続することが大切ですので、できた・できないにこだわらずに楽しみながら行ってみてください。



磯谷 仁 (通称スッパマン先生)
【有限会社きょのいい羊達 代表取締役】
幼稚園教諭を経て有限会社きょのいい羊達 (幼児体育指導) 設立
元浜松大学准教授、元常葉大学准教授
各社保育誌に執筆連載
全国各地の研修会にて体育実践指導をおこなっています



氷の世界！



さわいでしょー



雪だるまできた！



かくれんぼ



「ごめんね。」「いいよ。」



カードをあわせて…っと



ペッタン、お餅をついたよ



雷様にお着替え



虹だ、きれいだね。



節分

編集後記

ようやく新型コロナウイルス感染症も5月には第5類に移行となります。3月に卒園する園児たちは、3年間コロナ禍で生活し、多くの制限もありコロナさえなければと思うこともあったことでしょう。しかし、悩みながらも、子供たちのためにいろいろなチャレンジしてきた3年間でもありました。そんな

先生たちの気概と行動力を、先生たちの背中を通して子供たちも感じていたと思います。コロナ禍を過ごした子供たちには、どんな壁をも乗り越える勇気とチャレンジ精神が育まれ、これからの人生を逞しく生きていくと欲しいと願います。

認定こども園リーチェル幼稚園 足立 武裕